

大学の世界展開力強化事業 取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアム(SUIJI)の下で両国の学士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree, Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 6大学協働によるサービラーニング・プログラムに関する覚書の締結

日本・インドネシア6大学の学部学生を対象としたサービラーニング・プログラムに関する覚書を締結し(H25年8月)、質の保証を伴った実施体制を整備した。

○ 6大学共同学位プログラム(修士課程)の実施体制の改善

日本とインドネシアにおける共同学位プログラム(修士課程)の本格実施に伴い、事前にあげられていた課題(単位制度、カリキュラム内容の相違など)を6大学でチェックし、必要とされる改善策を講じた。

〈インドネシアでのサービラーニング、小学校での活動風景、H26年2月〉



○ 6大学共同学位プログラム(博士課程)の実施にむけた検討の開始

博士課程における6大学共同学位プログラムの実施に向け、大学間で質の保証を確保するため、制度の検討を開始した。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

○ サービラーニング・プログラムの本格始動

6大学の学部学生がともに農山漁村地域に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを四国の5サイト(H25年8月)とインドネシア5サイト(H26年2月)で実施し、日・イの学生延べ約200名が参加した。

○ 修士課程共同学位プログラムを実施

農学関連分野における共同学位プログラム(修士課程)を実施し、研究内容に即した教員とのマッチングを図った。また、H26年9月に覚書締結を予定している博士課程共同学位プログラムの枠組みの検討を開始した。

○ 外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる第二回外部評価委員会を開催(H25年12月)。プログラム実施内容を検証し、助言を得た。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

インドネシアで実施したサービラーニング・プログラムに、日本3大学から学部学生計58名を派遣。共同学位プログラムでは、修士課程の学生8名を派遣した。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	66	69	80	97
学生の受入	19	39	55	61	69

注)H24, H25は実績、H26以降は計画

○ 外国人留学生の受入

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計33名を受入。共同学位プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生6名を受け入れた。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

渡航に先立ち、インドネシアの概要を理解するためのガイダンス、サバイバル・インドネシア語クラスを実施した。また、必要な入国ビザを円滑に取得できるよう、関係総領事館などと情報交換を図った。コンソーシアムの協定の下、派遣先では、宿舎の斡旋、生活面のサポートをインドネシア側大学が担った。

○ インドネシア人学生受入促進のための環境整備

インドネシア人学生の受入にあたって、宿舎の斡旋、生活面のサポートを日本側大学が担った。また、インドネシア人学生の渡航費用の一部について日本企業から支援を得た。

〈インドネシアで開催したサービラーニング成果発表セミナー、H26年3月〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ Facebookを通じた情報発信・共有

派遣・受入学生・教員間の情報共有と、取り組みの情報発信のメディアとしてFacebookを活用した。

○ セミナー、ワークショップを通じた成果発信

国際セミナー(H26年3月、インドネシア)やワークショップを開催し、成果を議論・発信した。